



「リケジョ」と呼ばれ、最近、注目の高い理系女子。16歳から工学を学ぶ松下春奈助教も、生粋のリケジョです。

最初に、研究していることを伺ってみると、「まだ誰も解き明かしていない世界の謎を解き明かすこと」と、壮大な答え。専門である非線形最適化について説明してくれました。

「例えば一定の品質を保ちつつ費用を最小に抑えた製品作りや、目的の地までの最安・最短ルートの検索など、世の中には解決すべき問題がたくさんあります。これらの問題の

# 「リケジョ」のススめ

(理系女子)

打ち込める分野を見つければ  
研究ほど楽しいことはない

# 松下 春奈

HARUNA MATSUSHITA

まつした はるな  
工学部  
電子・情報工学科  
助教 博士(工学)  
専門分野:非線形工学  
非線形最適化

女のコ同士の  
集団行動が  
苦手という人も(笑)、  
理系なら  
ノープロブレム!



回答を、いかに早く正確に導き出せるか、について研究しています。さらに、「その手法として、人間や自然界の動物の振る舞いを取り入れることで、より人間の考え方に近い、柔軟な答えを導き出すことに取り組んでいます。」とのこと。

自分を理系向きだと感じ始めたのは中学生の頃。問題を解き明かしていく数学に魅力を感じ、理系しかない!と決め高専に進学、高専でも編入

した大学でも、電気電子工学について学びました。

**社会的な能力も  
真摯な研究で  
身に付く**

「ずっと堅実に勉強してはいたのですが、今研究している分野の研究室に所属して、道が開けたのです。」

担当教授が、松下助教が考えた研究テーマを、「それ、面白いね」と評価してくれたのがきっかけでした。この言葉を機に、

自分には教授に与えられた研究しかできないと思いついて、自分にもできる事がある」という自信が生まれ、魅力に取りつかれていきました。さらに、国際学会で発表する機会もでき、「世界とつながれる」と実感し、研究の道を極めようと思ったそうです。

「研究とは、誰も答えを知らない問題を自分のアイデアで解決したり、謎を解き明かしたりすることです。きちんと考えながら

研究を進め、人にその内容を伝えようとするれば、自己表現力、プレゼン力、コミュニケーション力も、自然と身に付きます」と、学究を通して、社会でも役立つ力を得たと感じているそうです。

工学部の女子学生は、個性と行動力があり、自立して学んでいる人が多いと言います。松下助教「理系向きかな?と感じるなら、ぜひ思う道を進んでください。楽しいですよ」とメッセージをくれました。

学部生だった時代からのノート。研究のアイデアなどが書いてあり、今でも何度も見返すのだそうです。「私の財産です」と松下助教。

研究の楽しさ  
発表する喜びに  
ハマったら、リケジョを  
やめられません!

